人喰い姫

久遠寺紗月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
人喰い姫

【Ｎコード】
Ｎ７５６１Ｃ

【作者名】
久遠寺紗月

【あらすじ】
遙か昔、飢えに耐えかねた少女は人の肉を喰らい『鬼』となった。時は流れ、現代に出現した人を襲う異形のモノ『鬼』。そして『人喰い姫』と文献に記された椿の日常が、１人の転校生によって壊されていく……

序（前書き）

一部グロい描写が出ますので苦手な方はご注意を。

序

ポシャンッ…と椿が音の方向へ目を向ければ、庭の池の中を蛙が悠々と泳いでいた。
垣根に植えられた赤い花は今が盛りで、獅子おどしの音に合わせてさわさわと揺らいでいる。よくありがちな金持ちの庭を模して造られたそこは、手入れは行き届いているがいささか淋しげだった。
「どうかしましたか、姫」
目の前には学生服を着た青年がお盆片手に立っている。長い前髪で表情は窺えないが、椿が唯一信頼している人物、御影静だった。
久野椿は小さく首を振ると、目の前で湯気を立てている朝食に手を合わせた。
「いただきます」
古いちゃぶ台に置かれたご飯、味噌汁、あじの開き。いずれも質素だが見た目良く食欲を誘う匂いが漂っている。しかし椿と御影は表情一つ変えることなく、黙々と箸を口に運んでいた。
小さく聞こえて来るのはテレビのアナウンサーが告げるニュースだけ。

『また殺人事件です』

5月に入って何件目かの連続殺人事件の続報。犯人は未だ捕まらず現場が比較的近い場所であったことから、椿の通う学校では毎日のように注意を呼びかけていた。
「最近物騒になりましたね」
ちらりとテレビに目を向けた御影が、お茶片手にしみじみと呟く。
椿は箸を置くと、たいして興味なさそうにテレビ画面を見やった。
「躍起になって取り上げているだけで、昔から殺人なんて日常的にあったさ。それより年金問題の方が私は気になるね」

「貰えるかどうか分かりませんし、今は学生ですからね」
「払うのは義務だが、しかし私の場合は……」
「『久野椿』が成人してから考えましょうか。まだ先は長いのですから」
　急がないと遅刻しますよ、と促され椿は食器を片付け始める。
八畳程の居間、その横に台所がありそこも一般家庭と比べるとかなり広さがある。他も似たような大きさで、住んでいる椿自身何部屋存在しているのか忘れてしまう程の数だった。
全て御影による『姫』に相応しい邸宅を、という考えによるものだ。もっとも『久野椿』には領地はなく、姫と御影が一方的に呼んでいるに過ぎない。何度異論を唱えた所で、御影には変える気はないようだった。
「お待たせしました。行きましょうか」
　お弁当の包みを渡され、椿は御影と共に家を出る。
外は雲一つない五月晴れ。
周りの風景が時代の流れに変わっていっても空の色だけは変わらないと、椿は口元をほころばせる。
ヒラヒラした制服にも使用頻度の少ない携帯電話にも今は慣れた。
『久野椿』都立高校２年。それが今の椿を表す存在証明（アイデンティティ）だった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7561c/

人喰い姫

2010年10月10日19時54分発行